



薬物依存 = 病気

薬物依存は治ります！

薬物依存は「病気」です。

さらに薬物依存は「違法行為」という側面を持ちます。

自分のため、周囲の人達のため、社会のために治療を積極的に受けましょう。

日本麻酔科学会は「病気」の治療を支援します。

下記のチェックリストで思い当たる方は日本麻酔科学会にご連絡ください。

詳しい情報は日本麻酔科学会HPをご参照ください。なお個人情報は必ず保護されます。

薬物依存症は、以下のような行動パターンを取ります。自分あるいは周囲で気が付かれたことがありますか？
このチェックリストはASAのものを参考にして作成しました。

- 麻酔処方量が増加する。
- 気分変化が激しく、うつ、怒り、多幸感などを繰り返す。
- 診療録の記載が雑になり、読みづらくなる。
- 麻薬処方量が施行手術に不釣合いに多量となる。
- 食事交代や休憩交代を断るようになる。
- 一人で麻酔をすることを好む。
- 緊急手術でも麻薬を大量に用いる心臓外科手術などは進んで引き受けようとする。
- 他の人の麻酔を進んで交代しようとする。
- 仕事が終わっても病院に遅くまで残っている。
- 当直などを志願することが多くなる。
- 症例と症例の合間に連絡が取れないことが多くなる。
- 回復室での麻薬投与も自分で行うと言い張る。
- トイレ交代の要求が多くなる。
- 注射痕や麻薬使用時の寒気を紛らわすため、長袖の上着をよく着用する。
- 瞳孔は縮腫していることが多い。
- ICU入室時に患者が麻酔記録上の麻薬使用量に不釣合いな痛みを訴える。
- 体重減少や皮膚蒼白がみられる。
- 注射している現場が発見されることがある。